■中江藤樹　　**儒学者。日本における陽明学派の始祖で，近畿に勢力を持ち，没後，″近江聖人″と呼ばれる。「翁問答」。**
なかえとうじゅ
・・・・・・1608＝　　近江国高島郡小川村で，大溝城主家臣中江吉長の子ながら農民(浪人)となった吉次の長男に生まれる。

徳川家康没・1616＝ 8歳：祖父吉長に求められて養嗣子となり，伯耆国米子に赴く。
吉原遊郭始・1617**＝ 9歳：**祖父の主君の転封にともない，伊予国大洲に移住。祖父が風早郡代官となり，同地で私塾に学ぶ。
・・・・・・1618＝10歳：**_「大学」の一節に触れて感激，聖賢の道を志すようになり，**

支倉常長帰国1620＝12歳：賊徒の邸内侵入を祖父とともに防ぐ。

元和大殉教・1622＝14歳：元服。祖父吉長が死去して，家督を相続。
徳川家光将軍1623＝15歳：
ｲｽﾊﾟﾆｱ断交・1624＝16歳：大洲の医師らが招聘した禅師に**_「論語」の講義を受け，「四書大全」を読み，朱子学に傾倒していく。**
寛永寺創建・1625＝17歳：父吉次が死去。近江に帰省し，大洲に戻る。
人身売買禁止1626**＝18歳：_郡奉行に登用されるも，関心は専ら学問にあって，独学を続けるうち，**

・・・・・・1628＝20歳：**_4つ年長の同僚中川貞良が弟子入り，彼のために「大学啓蒙」を著わす。**

寛永禁書令・1630＝22歳：**_「安昌弑玄同論」，**
儒者でありながら僧形となった林羅山を攻撃して，
徳川秀忠没・1632＝24歳：**_「林氏剃髪受位辨」を著すなど，先鋭的であったが，生家に一人残る母を気にするようになり，近江に帰省して大洲移住を説得するも断られ，大洲に戻る船中で，激しい喘息に襲われる。左遷され，大洲藩から分離した新谷藩初代藩主加藤直泰に仕えた後も，**
鎖国令Ⅱ・・1634＝26歳：**_母への孝養のため度々辞職を願うも許されず，ついに脱藩し，**
参勤交代始・1635**＝27歳：_京都に滞在して罰を待つが，中川貞良からお咎め無しと知らされ，近江に帰住。酒を売り米を貸して生計を立てるうち，村の塾教師として一生を送る意志を固め，易の研究を始め，**
東照宮完成・1636＝28歳：**＊独学でマスター，私塾を開設するや，大洲からも，次々と入門する者が訪れ，医者をめざす弟子たちに，中国の難解な医書を易しく解説するテキストまで作成する教育者ぶりを発揮，**
島原の乱始・1637＝29歳：**_「礼記」の教えどおりに30で結婚したように，儒教の礼法の順守を志していた。**
島原の乱終・1638＝30歳：「捷径医筌」「持敬図説」「原人」を著わす。
鎖国令Ⅴ・・1639＝31歳：「論語郷党啓蒙翼伝」。**_塾の規則「藤樹規」を作成。**
寛永飢饉始・1640＝32歳：**＊「孝経」「性理会通」を読んで触発され，以後，大乙神を祭るなど，大きな転機を迎え，「翁問答」を著す。さらに，王陽明の弟子の「王龍渓語録」に触れて，朱子学に疑問を抱くようになる。**
家光鎖国完成1641＝33歳：**_伊勢の皇太神宮に参拝し，また儒教の礼法を固守する弊害を認めるようになる。この年には，本当の師を求めていた熊沢蕃山が，たまたま藤樹の噂を聞いて，入門。**
初の高札・・1642＝34歳：長男が誕生。「孝経啓蒙」，
寛永飢饉終・1643＝35歳：門人のため「小医南針」を著わす。
明滅亡・・・1644**＝36歳：_「陽明全書」を入手，陽明学にしだいに没入して行く。門人のため「神方奇術」を著わす。**
・・・・・・1646＝38歳：次男が誕生するも，妻高橋氏が死去。
・・・・・・1647＝39歳：再婚。**_「鑑草」を刊行。**
市中諸法度・1648＝40歳：三男が誕生して，まもなく，**_没した。内村鑑三は「代表的日本人」のなかで″村の先生″として描いている。**
備前国岡山藩主池田光政からも敬われ，彼の遺児3人はつぎつぎに召し抱えられた。

疋田啓佑「儒者」，中公シリーズ「日本の名著」，「人づくり風土記(滋賀)(愛媛)」，「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，「日本の群像」，平凡社百科事典，山田風太郎「人間臨終図巻」，「目でみる日本人物百科」，日本の古典名著，